

2018 年度合格目標 司法書士講座

早稲田合格答練ガイダンス

『答練を最強の武器にする方法』

担当講師：木村 一典

無断複製（コピー等）・無断転載等を禁じます。

第1問 占有改定に関する次の1から5までの記述のうち、判例の趣旨に照らし正しいものは、どれか。

- 1 家屋の賃借人Aは、家屋に備え付けてある甲動産をBに売却し、占有改定の方法で引き渡した。この場合、当該家屋の賃貸人Cは、甲動産について、不動産賃貸の先取特権を行使することができる。
- 2 Aは、自己所有の甲動産をBに売却し、占有改定の方法で引き渡した後、さらに、Cにも甲動産を売却し、占有改定の方法で引き渡した。この場合、BはCに対して甲動産の所有権を主張することができない。
- 3 Aは、自己所有の甲動産をBに贈与し、占有改定の方法で引き渡した。この贈与が書面によらない贈与であった場合、Aは贈与を撤回することができる。
- 4 Aは、B所有の甲動産に対して適法に差押えをなしたが、差押後も執行官がBに甲動産の保管を委ねていたところ、Bは、甲動産をCに譲渡し、占有改定の方法で引き渡した。その後、当該差押えが解除された場合、Cは、Aに対して甲動産の所有権を主張することができる。
- 5 AはBから借りている甲動産を無断でBが所有者であることにつき善意のCに売却し、占有改定の方法で引き渡した。この場合、CはBに対して甲動産の所有権を主張することができる。

第2問 傷害の罪に関する次のアからオまでの記述のうち、判例の趣旨に照らしAに傷害罪が成立するものの組合せは、後記1から5までのうち、どれか。

ア Aは、復讐の目的で、B女の眉毛を無理やり剃り落とした。

イ Aは、傷害の目的で、Bを狙って石を投げたが、命中しなかった。

ウ Aは、暴行の目的で、Bを殴ったところ、勢い余って全治3日ほどのけがを負わせた。

エ Aは、脅かす目的で、Bの耳元で大太鼓を鳴らしたため、Bは意識がもうろうとなった。

オ Aは、恋人Bが浮気をしたことに激怒し、復讐の目的で、Bが風邪を引き高熱を発して寝込んでいるのに薬を与えなかったため、Bは風邪を悪化させ肺炎となった。

1 アイ 2 アウ 3 イエ 4 ウオ 5 エオ

第3問 持分会社の計算等に関する次の1から5までの記述のうち、**合名会社及び合資会社には当てはまらないが、合同会社には当てはまるものは、どれか。**

- 1 計算書類が書面をもって作成されている場合において、持分会社の債権者は、裁判所の許可を得て、当該書面の閲覧又は謄写の請求をすることができる。
- 2 持分会社は、各事業年度に係る貸借対照表を作成しなければならないが、当該貸借対照表を公告することを要しない。
- 3 持分会社の社員となる者が出資の履行をした場合には、資本金の額は、必ず増加する。
- 4 持分会社は、利益の配当により社員に対して交付する金銭等の帳簿価額が当該利益の配当をする日における利益額を超える場合には、当該利益の配当をすることができない。
- 5 持分会社を退社した社員がその持分の払戻しを受ける場合において、当該退社した社員の持分は、その出資の種類を問わず、金銭で払い戻すことができる。